

成功へのキセキ 南の国の「ナンデシ」税理士

第69回 はじめてのリモートワーク

緊急事態宣言が延長されました。ヒトとの接触を8割減らすために、弊事務所もリモートワークに取り組んでいます。確定申告を挟んでの緊急事態宣言。こんなに苦しい申告は、平成2年に開業以来、初めてのことです。

2月の半ばまで、中国だけの問題とタカをくくっていたコロナは、3月に入るとヨーロッパやアメリカを襲い、街角から人影の消えたロックダウンのニュースが飛び込んでくるようになりました。

日本でもすでにマスクは品薄で、全く手に入らない状態が続いていましたが、ノートパソコンも品薄で入荷しないというネット情報が目に入るようになり、本能的にこれはまずいかも…と思い始めたのも、この頃です。

とはいえ、まだ3月アタマの段階では、リモートワークは大企業が行うもので、うちのような小規模な個人事業主にはとても無理な相談だとノンビリ構えていました。

いや、会計事務所のスタッフが自宅で作事するなんて、そもそもあり得ないことだと思っていたので、その時点でリモートワークに対する準備は、何一つ整っていませんでした。なぜ、これまでリモートワークに取り組んで来なかったかという、最大の理由は、セキュリティの問題です。お客さまから預かる資料やデータを、事務所の外に持ち出すことは、情報漏えいのリスクを考えると、絶対にNGだと思っていたからです。うちの事務所は、小さな子どもをかかえるママたちが多いので、以前から家に持ち帰って仕事をしたいという声はたくさんありました。

たとえば子どもがインフルエンザにかかって出席停止となると、それに付き添うためママも出社できなくなりますが、本人はいたって元気だったりする訳です。で、真面目なスタッフちゃんたちは、自宅に仕事を持ち帰りたいと申し出てくれるのですが、その都度、事務所からデータを持ち出すのはダメと、却下してきたほどです。

けれど3月半ばになると、無断外出した人に罰金が課されるなど、刻々と伝えられる海外のニュースに、何とも言えない恐怖を感じるようになりました。ヨーロッパやアメリカと同じような外出禁止令が出されると、事務所のスタッフも出社できなくなるわけで、すると事務所機能がストップするかもしれない…。

本当にリモートワークが必要になるのか、半信半疑ながらも、システム担当のスタッフにリモートワークを始めるための準備をするよう指示。まずは、必要な機材やソフトウェアの洗い出しからスタートです。

弊事務所では、仕事を効率的にこなすために、画面の大きなデスクトップ型のディスプレイを1人2台ずつ、使っています。リモートワークを導入するとすると、新たにノートパソコンを購入して、各自に貸与しなければなりません。

もちろん、ノートパソコンなら何でもいいという訳にはいきません。安いものはスペックが低いので、業務で使うには適さないからです。それだけでなく、スタッフはデュアルディスプレイに慣れていて、小さな画面のノートパソコン1つで業務を行うのは、それだけで大きなストレスです。というわけで、購入するパソコンのスペックは、最高のものを用意することにしました。

とは言え、まだその時は本当にやってくるかどうか分からないロックダウンに向けて、1人につき1台のノートパソコンを購入することに、ものすごく抵抗がありました。もしかしたら、日本はヨーロッパのように感染が広がらず、購入したパソコンは無駄になってしまうかもしれないからです。

さらに言えば、リモートワークのために必要なのは、ノートパソコンだけではなくありません。リモートソフトはもちろんのこと、ポータブルのWi-Fiとウイルスバスター、パソコンを持ち歩くためのパソコンケースも必要…と、通帳の残高はどんどん減っていきます。

そこでその時点では、徒歩通勤者以外の、電車通勤者用にノートパソコンを15台ほど購入することにしました。出費を最小限に抑えたいと思うのは、事業主なら当然のことだと思います。パソコンも一度に買わず、クレジットカードの締め日を超えて2回に分けて購入するつもりでした。私としては、感染拡大への準備は、それで精一杯だと考えていたのです。

ところが、そんな話をすでにロックダウンが実施されているフランスのクライアントに話したところ、彼女から、ご自分の体験を綴った、熱いメッセージが届きました。

必要なかったらなかったで、よかったと済ませることができ
ます。わたしなら今すぐにもリモートの準備を死ぬ気でや
ります。社員には今日からでも順繰りにテレワークをさせて
練習させます。すべてがマヒしてからでは遅いのです。
#####

今思うと、本当にその通りです。このメッセージをいただいたことで、やっと覚悟が決まりました。いまでは、日本の法律とフランスの法律は違うので、強制的なロックダウンは出来ないと知っています。けれど、3月半ばの時点ではまだ何

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトンわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための士業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

もかもが分からない状況でした。

無駄になっても仕方ない。
本当に怖いのは、業務が止まってしまうことだ。

そう考えて、リモートワークの準備を全員分揃えるようにスタッフに指示したのが、3月20日のこと。すでに品薄状態が進んでいて、なかなか納品されないパソコンやWi-Fiにイライラしながら、緊急事態宣言の前日には、全員分の準備を終わらせることができました。

本当に危機一髪。追加注文が、あと1日でも遅れていたら、リモートソフトもWi-Fiも、品切れとなるところでした。背中を押してくれたクライアントには、感謝してもしきれません。日本では、リモートワークは強制ではありませんが、通勤に不安をかかえるスタッフのために、全員分の準備をしておいて本当に良かったと、つくづく思います。

弊事務所でもリモートワークが実現できているのは、前回のコラムでも書きましたが、Pマーク(プライバシーマーク)取得に向けて、一昨年から全ての書類をデータ化する取り組みをしていたからでもあります。前述したセキュリティの問題は、このデータ化で、かなり削減できているのではないかと思います。

我ながら、先見の明あり? 笑笑

もちろん、リモートワークを導入するにあたって、解決しなければならない問題は、他にもたくさんあります。

まずは何と言っても、全員のモチベーションをどうやって保つのか、そして情報の共有をどうするかという問題です。巷にはたくさんコミュニケーション用のツールがありますが、ユーザビリティとセキュリティを考慮して、どれが1番よいのかの検討も、ゼロから行わなければなりませんでした。セキュリティもユーザビリティも良いツールは、もちろんそれだけ料金が高くなります。

弊事務所には、元システムエンジニアのスタッフが4名いるのですが、ここでも彼女たちが百人力の働きをしてくれ、本当に感謝です! いろいろと検討を重ねた結果、事務

所内のコミュニケーションツールとしては、マイクロソフトのTeamsを、クライアントとの会議用ツールとしては、シスコシステムズのWebexを使おうという結論に落ちつきしました。

次に、解決しなければならないのが、労務管理です。小さな子どもを持つママたちは、保育園がお休みの状態で、朝9時から18時まで、事務所勤務と同じようには、働けません。そこで、1日に働く合計時間だけ決めておき、空いた時間で自由に働くタイプ(その代わり残業の申請はできない)と、事務所勤務時と同じ時間帯で働くタイプのどちらかを選んでもらうことにしました。今後、リモートワークが定着するためには、労務管理の法律が変わる必要があると、切に感じています…。

その他、各自に事務所の携帯電話を持たせて、というリスクがありますが、これはまだ実現していません。この状態が長く続くか、またはこれを機会にずっとリモートで働きたいというスタッフがいれば、携帯電話の貸与も必要になってくるのかなと、これは次のテーマだと思っています。

コロナという新型ウイルスは、古い価値観をひっくり返すために、なにかの意図を持って神さまが送りこんだのではないかと感じるほどです。

もともと時代は、新しい世界に向かって動いていたのだけ
ど、本来はもっと、なだらかに変わっていくはずでした。けれどコロナが連れてきた波は、瞬時に次の波に飛び移らなければ、あつという間におぼれてしまうぐらいの激しい波です。

コロナが収束しても、もう元の世界に戻ることはないでしょう。『千と千尋の神隠し』の映画にでてくるトンネルの向こうの世界のような、異次元の世界。

会計業界も例外ではありません。激しく世代交代が起こり、新しい波に飛び移れない人は、取り残され、次のステージに行くことはできないでしょう。

とはいえ、日常はリアルです。目の前に積み上がった書類の山を、1つずつ、1つずつ片付けていかなければなりません。急激に変化する時代についていけるよう、気持ちを強くもちながら、日々の仕事をコツコツ頑張って行くしかないのかもしれないね。

好評
発売中

一生食っていくための「士業」の営業術

原 尚美 著 (中経出版) 1,500円+税

カネなし。客なし。コネなし。開業と同時に出産したため、普通の新人ならたつぷりあるはずの、時間もなし。文字通りゼロからスタートした会計事務所を、ミャンマー事務所含めてスタッフ50名の規模にまで成長させたノウハウについて書いた本です。特別なスキルもコネも持たない、すべての平凡な個人事業主に、ビジネス拡大のヒントが満載です。

【国語/漢文】
「マーケティング」…
これからの士業に
必要なことが
この1冊で
全部わかる!

「一生食っていくための
士業の営業術」
は、経営者・士業
関係者だけでなく、
学生さんにも読んで
ほしい本です。
(原 尚美)